



2050年の福島浜通りにおける
産業ビジョンを考える

島田 剛

報告の3つのポイント

1. 経済成長には**イノベーション**が必要（発明だけでなく、工夫、新しいアイデアなど）
2. 新しいアイデアをもたらすのは「**弱いつながり**」
3. 「**期待**」が街づくりには大切（砂漠だったロサンゼルス、ラスベガス、ドバイ）

3

報告の目的

1. 復興計画をどう評価するか
 2. グローバル化の中の福島
 3. 復興についての今後の研究会の方向性を考える
- ポイントの1つ: ストーリーを作るのか、それとも全体を
考えるのか（点か面か）

1. 復興計画をどう評価するか

1. 福島イノベーション・コースト構想（「廃炉」「ロボット」「エネルギー」「農林水産」）
 2. 国・県・地元市町村の代表が一堂に会する法定の「復興再生協議会」
 3. 福島県浜通りの産業復興へ実証実験計画に7億円：2021年度公募スタート
1. 産業集積の意義（アルフレッド・マーシャル）を考える必要あり。人が集まる「期待感」をどのように作り出すかが鍵。
 2. ロボットテストフィールドは南相馬市に、廃炉国際共同センターは富岡町にといったように、広く分散・点在。これらの地域は離れているだけでなく、歴史的にも全く異なる。さらに電源三法交付金による恩恵や原発事故被害に応じた賠償水準の地域格差により一体感を持ちにくい

5

2. グローバル化の中の福島:

技術(情報通信、AI)の発展と地方経済



距離を縮める効果(Zoom, リモートワーク):
福島の比較優位は?



AIによって雇用が奪われる可能性あり



情報が一極集中する
(「グローバル都市」👉、「中間都市」👉)



高度な技術を持った人材の給与👉、それ以外
分配面に配慮した政策で人を呼び寄せる

6

政策として考えられるのは

産業政策
(国や県などの行政の介入)

規制緩和
(民間の力を使う)



観光開発?

1. 資本は低賃金(と低い法人税)を求めて、国境も超えていく(当然、福島にいてくれるとは限らない)

2. 日本の製造業は、人件費の安い商品と戦わないといけない

国内の人件費は、移民や海外労働者の低賃金により低く抑えられる(「移民 vs 自国民」というランプの図式)

3. 「そこにしかないもの」(社会関係資本→観光開発)

しかし、新型コロナでしばらくは難しい。また、地方が全て観光に頼る経済では脆弱な構造に

人材をどうやって集めるか(つながるか)

経済成長の核となるものはイノベーション(事例:ソニー)。その核にあるものは「人的資本」である

1. 若い人の教育 = 他の場所でやらない比較優位を

芸術・デザインなど生活するのが難しい分野の人が移住しやすい環境を整える=新しい産業を生み出す可能性(北欧の事例)

2. リストラ層の活用 → リモートワークの活用

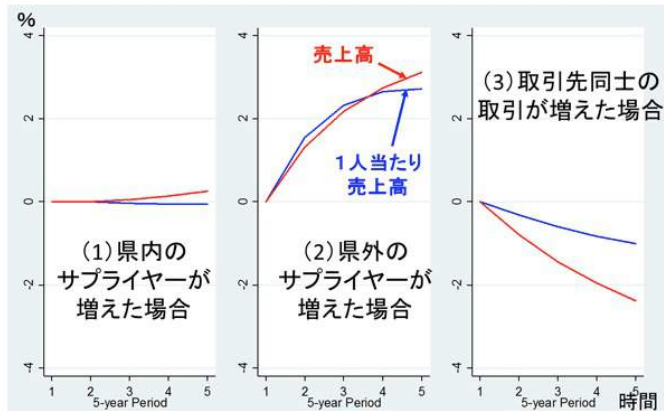
3. ダイバーシティ → 生産性とは違う別な社会を提案

10

サプライチェーンを通じた知識伝播 —遠くのつながりと強いつながりの効果—

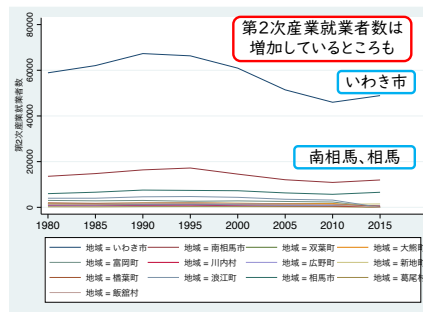
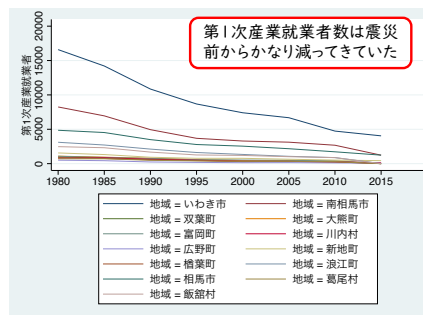
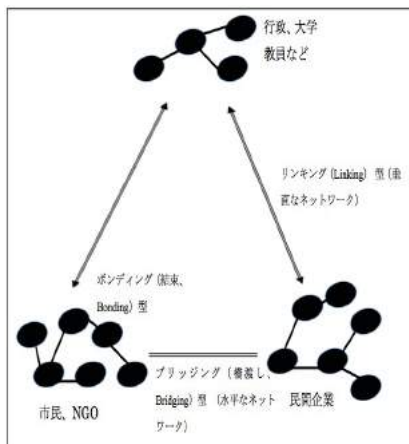
戸堂 康之 (早稲田大学) / Petr MATOUS (東京大学) / 井上 寛康 (大阪産業大学)

図1: 取引先とのネットワークが変化した時の売上高と1人当たり売上高の変化



- 地域の企業を地域外の企業や人材と結び付けるような「つながり支援」が有効では? 地域外の企業との商談会、展示会への参加、大学との産学連携、ベンチャー・キャピタルの招聘、Uターン・Iターンを支援

ボンディングからブリッジングへの転換の促進必要



多様な人材を呼び込むことでイノベーションを創り出す

ライフ=ワークバランスの取りやすい環境を整備できる

| 中国の自動車メーカーに移籍した主な日本人技術者 | | | |
|-------------------------|----------------|-----------------|---------|
| 氏名 (敬称略) | 出身企業 (主な経歴) | 移籍先の中国企業 (役職) | 発表時期 |
| 宮下 善次 | トヨタ (品質管理担当) | 小鹏汽車 (品質高級総監) | 2019年2月 |
| 矢島 和男 | 日産 (EV開発責任者) | 觀致汽車 (CEO) | |
| 宇野 高明 | 日産 (R&D管理部長) | 奇点汽車 (CTO) | 19年7月 |
| 大谷 俊明 | 日産 (執行役員) | 宝能汽車集団 (常務副総裁) | 20年2月 |
| 勝又 正人 | トヨタ (チーフエンジニア) | 広州汽車集団 (首席技術総監) | 21年7月 |

(注)中国企業の発表資料をもとに作成

(日経新聞 2021年9月3日 朝刊)

福島コーヒープロジェクト

- ① コーヒー産業の主な集積地は神戸である (UCCおよび石光商事)。震災地つながり。(関連産業として、パン、菓子など (風月堂、ドンクなど))
- ② コーヒーの産地の多くは南米・中南米・アフリカ (ルワンダと福島のつながり)
- ③ 現在、コーヒーの焙煎およびドリップの技術を身につけた障がい者の雇用が進めようという動きがある (ベルシステム24、ソーシャルグッドロースターズ千代田など)。JAL、サントリー、ベルシステム24、コーヒーハンター川島良彰社長のミカフェート (株)。
- ④ アートとコーヒーのつながり

まとめ

1. イノベーション

2. 弱いつながり

3. 期待

1. 若い人の**教育** = 他の場所でやらない比較優位を

2. **リストラ層**の活用 → リモートワークの活用

3. **ダイバーシティ** → 生産性とは違う別な社会を提案